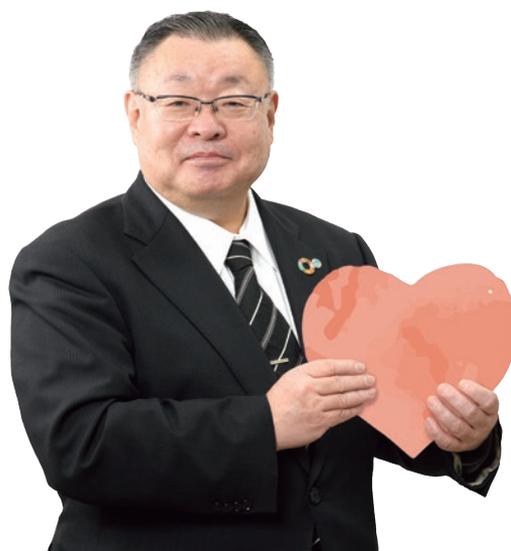


男の人も首相になれるの!?

「男の人も首相になれるの?」…ドイツの子どもがよく大人に尋ねる質問だそうです。2005年にドイツ初の女性首相となったアンゲラ・メルケル氏は16年の執務を経て引退しましたが、政界での女性の存在感を高めたメルケル首相の姿は、当時のドイツの子どもたちにとっていかに大きなものであったのかわかるエピソードです。

世界を見渡せば、多くの女性が首相などの要職に就き、リーダーシップを発揮しています。2022年、初の女性大統領となったハンガリーのノヴァーク・カタリン氏や30年ぶり史上2人目の首相となったフランスのエリザベット・ポルヌ氏。2019年、史上2人目でデンマークの



ジェンダー平等、「203050」の達成を

首相となったメッテ・フレデリクセン氏。2017年、カトリン・ヤコブスドットシル氏が首相となったアイスランドは、「クオータ制」を導入し、国会議員の4割以上を女性が占めています。日本は、1960年の池田内閣で初めて女性大臣が誕生し、現在閣僚20人のうち最多の5人が就任しています。それでも参画率は25%です。

ITUC(国際労働組合総連合)の主要組織であるアメリカ・ドイツ・日本・カナダのナショナルセンターの代表は、連合の芳野会長をはじめすべて女性です。連合は、10月にスタートした第18期で、役員女性の割合が初めて40%を超えましたが、世界の潮流は「203050」^{ニマルサンマルゴマル}です。世界経済フォーラムが6月に発表した日本のジェンダーギャップ指数は146カ国中125位で、過去最低となりました。分野別では「教育」が47位、「健康」が59位ですが、「経済」は123位で、女性管理職比率の低さなどが課題となっています。さらに「政治」は138位で、衆議院の女性議員比率が1割にとどまることなどが要因です。

「203050」を達成するには、①男女間賃金格差の是正、②固定的性別役割分担意識の払拭、③政治の場への女性参画が必要です。それを支える取り組みとして、「クリティカル・マス=影響力を行使し得る30%の参画率」の理

解浸透と実践の場を作ること、「アンコンシャス・バイアス=無意識の思い込み」を払拭することが求められています。

それが当たり前前の社会になること

2024年の秋に出発する66次南極地域観測隊の隊長に、東京大学の原田尚美さんが決定しました。原田さんは観測隊史上2人目の女性隊員として1991年の33次隊で初めて南極を訪れ、2018年の60次隊では、女性初の副隊長を務めました。

「女性医師」「女性パイロット」など「女性〇〇」はいつになったら無くなるのだろう。「男は仕事・女は家庭」「男性は主要な業務・女性は補助的な業務」という思い込みもなかなか無くなりません。秋篠宮家の次女佳子さまは、今年のガールスカウト日本連盟主催の「ガールズメッセ2023」で「ジェンダー平等が達成されて、誰もが安心して暮らせる社会になることを、誰もがより幅広い選択肢を持てる社会になることを、そしてこれらが当たり前前の社会になることを、心から願っております」と挨拶されました。象徴としての天皇家の一員として、最も制約がある中で過ごされる立場からの言葉として、私は心打たれるものがありました。